

金沢卯辰山工芸工房

平成22年度特別展

茶道具

— 金沢の工芸・伝統と現代の造形美 —

平成22年

10月1日(金)～11月15日(月)

会 場：金沢卯辰山工芸工房 2F展示室

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日：火曜日

入 館 料：一般 300円（20名以上団体一人250円）

65歳以上 200円 高校生以下無料

主催：(財)金沢芸術創造財団 金沢卯辰山工芸工房

後援：北國新聞社・テレビ金沢・エフエム石川・ラジオかなざわ

主な展示作品

「作品名」分類

作者名 制作年



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「海老図楽茶碗」陶磁

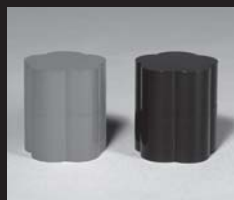
松田 馬宋 江戸後期 19世紀



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「龍彫文茶碗」陶磁

初代 和沢 含山 明治～大正 19～20世紀



〔石川県立美術館蔵〕

「朱黒漆塗梅形中次」漆工

上棚 宗佐 昭和 20世紀



〔金沢市立中村記念美術館蔵〕

「平文慈光平棗」漆工

大場 松魚 平成3年(1991)



〔石川県立美術館蔵〕

「色絵更紗竹文香合」陶磁

北出 不二雄 平成5年(1993)



〔金沢市立中村記念美術館蔵〕

「炭香合」漆工

坂下 直大 平成元年(1989)



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「象嵌鹿香合」金工

番作 外茂吉 昭和 20世紀



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「色絵雁香合」陶磁

二代 横萩 一光 明治 19～20世紀



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「果実文香合」漆工

二木 成抱 昭和初期 20世紀



〔石川県立美術館蔵〕

砂張水指「海原」金工

金岡 宗幸 昭和45年(1970)



〔金沢市立中村記念美術館蔵〕

「明保乃水指」漆工

高村 表恵 昭和56年(1981)



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「大桶釉末広形水指」陶磁

十代 大桶 長左衛門 平成17年(2005)



〔金沢市立中村記念美術館蔵〕

「水鳥蓑盆」漆工

小松 芳光 昭和 20世紀



〔個人蔵〕

「桐利休形茶箱(雲錦之図)」木工

二代 伊藤 伊齋(箱)・木村 雨山(描絵) 昭和45年(1970)頃



〔金沢卯辰山工芸工房蔵〕

「砂張銅鑪」金工

初代 魚住 為楽 昭和35年(1960)



〔個人蔵〕

「氷結(風炉・釜)」ガラス

吉本 由美子 平成7年(1995)

茶道具

― 金沢の工芸・伝統と現代の造形美 ―

平成元年に創立した金沢卯辰山工芸工房は、加賀の伝統を受け継ぐ工芸技術である、陶芸・漆芸・金工・染の4部門に、新しい工芸分野であるガラスを含める5つの工房があり、現代の若い世代への新しい研修機関として活動しています。さらに、展示棟では、常設展と特別展によって、加賀藩前田家の伝統にもとづく藩政期末から明治・大正・昭和・平成の金沢の工芸における作品とその技術を、研修者および一般の多くの方々にご覧いただいています。

今年度の特別展では、江戸後期より現代までの金沢の工芸作家による約80点の茶道具を展示いたします。金沢の茶道文化の歴史とともに洗練された茶道具には、それぞれの時代の新しい感性と巧みな造形技術を見ることが出来ます。まさに工芸の用の美を堪能できる世界です。陶芸・漆芸・金工による、茶碗・茶入・水指・香合をはじめとする茶道具、さらに、金沢の工芸では新分野であるガラスの作品も特別出品いたします。それぞれの素材や用途に応じたさまざまな造形技法や表現をご鑑賞下さい。



アクセス

列車	JR金沢駅下車
バス	金沢駅バスのりば90番路線、望湖台下車、徒歩約7分
タクシー	JR金沢駅前より約10分
自動車	北陸自動車道、金沢東ICより約15分

(財)金沢芸術創造財団

金沢卯辰山工芸工房

UTATSUYAMA CRAFT WORKSHOP
To 10 Utatsu-machi Kanazawa-shi Ishikawa-Ken 920-0832, Japan
〒920-0832 金沢市卯辰町10番地 TEL076-251-7286 FAX076-251-9113

[URL] <http://www.utatsu-craft.gr.jp>